

街道を歩く

東海道近江：O2鈴鹿峠―山中―猪鼻―南土山―白川



垂水斎王頓宮跡

平安―鎌倉時代380年間天皇が即位される度に天皇のご名代として天照大神のご心霊の御杖代を勤められる皇女、王女が斎王として京都から勢多、甲賀、ここ垂井、鈴鹿、彦志に泊まって伊勢に向かった。5泊6日の群行であった。ここで天皇から授けられた”別れのお櫛”を外して小箱に納めお守りとする行事が行われたという。頓宮として明らか残るのは此処だけだという。

常明禅寺

津和野藩亀井家の典医者、森鷗外の祖父森白仙は文久3年(1861)参勤交代の途次、土山の井筒屋で客死、寺に葬られる。明治33年鷗外が軍医として土山を訪れ、墓を建てる。その後津和野に移され、碑が建てられる。寺には長屋王が母の死を悼んで納めたという大般若経(国宝)が伝わる。境内に芭蕉句碑。
”さみだれに鳩のうすきを 見にゆかん”

土山本陣

寛永16年(1634)三代将軍家光が上洛の時土山喜左衛門が本陣職を任命され勤める以来明治3年まで土山家が勤める。明治元年には明治天皇が泊まれる。



大黒屋本陣

参勤交代などで土山本陣だけでは対応できなくなったので豪商立岡氏が控本陣に指定される。本陣年代不詳。

土山陣屋

天和3年(1683)代官猪飼治郎兵衛が建てるその後代官は多羅尾氏、岩出氏、多羅尾氏と代わり明治まで続く。

蟹が坂(鈴)の由来

その昔 鈴鹿峠に住民に危害を加えたり、旅人を食べてしまう巨大な蟹がいた。あるとき、恵心院の僧都、源信和尚が、戒めを授けると八つに砕けて解けてしまい黄色の液体となった。それをなめると甘かった。和尚は蟹の霊を供養するとともに黄色い液体を集めて飴を造ったという。今も売られている”蟹が坂飴”。

うえじまおにつら 上島鬼貫の句碑

鬼貫は大阪 伊丹の生まれ。東の芭蕉、西の鬼貫と称された人、独自の俳諧の境地を拓く。貞享3年(1686)東海道の旅のおり土山にてお六横買い求める。”吹かば吹け櫛を買たに秋の風”

土山宿 (坂下宿より2里半)

本陣2、脇本陣1、問屋場1、旅籠44
町並みは東の生野町から西端の瀧町までの10町。中町、吉川町が宿の中心。本陣、問屋場が置かれた。近江甲賀郡に属し、中世甲賀53家の一つ土山氏が治めていた。古代東海道(伊勢大路)が通じ古代から交通の要衝であった。御代参街道が整備されてから中仙道と東海道が結ばれ日野商人を初め近江商人の発展に貢献した。鈴鹿峠を挟んで坂下宿とは間の宿。



田村神社

祭神 坂上田村麻呂、嵯峨天皇、鈴鹿御前
田村麻呂は延暦16年(797)征夷大將軍任じられ奥州方面の朝廷勢力拡大に貢献。奥州征伐の帰途、鈴鹿峠の鏡岩に現れた鬼に向かつて矢を放ち鬼を退治。厄除けの神として祀られる。弘仁2年(811)没。



蟹が坂古戦場跡

伊勢国司北畠具教は天文11年(1542)山中城をせめた。城主山中丹後守秀國は防いだが再度攻められたので、守護六角定頼の援軍を得てここ蟹が坂で阻止する。



猪鼻
立場跡
明治天皇聖跡
旅籠中屋跡

山中一里塚跡
第二名神



海道橋

安永4年(1775)当時の代官岩出伊右衛門が幕府に願い出て許可になり完成。全長37m幅4m。工事費捻出のため橋の西詰に番所が設けられる。旅人一人3文徴収。昭和の初め洪水で流されるがその後架けられなかった。平成17年3月架けられる。

